

命の大切さと助け合う心 ～震災の教訓から～

阪神淡路大震災のことを知っていますか？

尊い命、大切な人、住んでいる家、仕事、学校を一瞬のうちに奪われた平成7(1995)年1月17日。その日から助け合いがんばってきた人たち。

その後も各地で様々な災害が起こっています。災害の記憶をつないでいくにはどうすればよいでしょう？



災害と助け合いについて

阪神・淡路大震災の後も、地震や豪雨、台風や火山の噴火など大きな自然災害は日本や世界の各地で毎年のように発生しています。

みなさんもニュースなどで、大規模な災害に見舞われ、住むところを失った人々や、家族などのかけがえのない人を亡くしてしまった人々を見たことがあるのではないのでしょうか。このように大規模な災害は、時として多くの人々を困難な状況に陥れ、大きな苦しみを与えます。しかし、同時に、被災者が避難所でお互いに助け合う姿が見られたり、被災を免れた地域から多くの支援が届いたり



一九九五年一月一七日午前五時四六分
阪神・淡路大震災

震災が奪ったもの
命 仕事 団欒 街並み 思い出
：たった一秒先が
予知できない人間の限界：
震災が残してくれたもの
やさしさ 思いやり 絆 仲間

この灯りは
奪われた
すべてのいのちと
生き残った
わたしたちの思いを
むすびつなぐ

(中央区東遊園地内
一・一七希望の灯り碑文 より)

と、人々に命や生きること、お互いに助け合うことの大切さを再認識させる機会ともなります。

神戸市が阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた際、内外から多くの支援が届いたことにより、大勢の人が助けられ、復興したことを知っておいてください。そして被災地への助け合い、思いやりの心を大切にして、私たちに何ができるかを考えてみましょう。